

議長定例記者会見 会見録

日時：平成28年8月1日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

みえ高校生県議会の開催について

第8回全国自治体議会改革推進シンポジウムの開催について

三重県議会インターンシップ実習生の決定について

「第10回紀伊半島三県議会交流会議」の開催結果について

2 質疑項目

みえ高校生県議会の開催について

第8回全国自治体議会改革推進シンポジウムの開催について

1 発表事項

みえ高校生県議会の開催について

(議長)おはようございます。平成19年の6月から議会改革の一環として、記者会見をスタートさせていただいていまして、皆さまには情報発信にご協力いただきましてありがとうございます。ただ今から、8月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。まず始めに、みえ高校生県議会の開催について、発表させていただきます。具体的な内容については、広聴広報会議座長である日沖副議長から発表させていただきますので、よろしくをお願いします。

(副議長)おはようございます。それでは、私の方から、みえ高校生県議会の開催について、ご説明いたします。お手元の資料をご覧ください。今月の19日(金)午後1時から、本県議会議事堂の議場におきまして、平成26年の初開催から2回目となりますみえ高校生県議会を開催します。この取組は、広聴広報活動の一環として、高校生に議会活動を体験してもらうことで議会に対する関心を高めていただくとともに、高校生の意見を直接聴くことで議会での議論に反映していくことを目的に行います。参加者は、資料の2ページに記載しております県内の高等学校16校に通う生徒52名と、県議会議員19名、知事、教育長であり、当日は各校の生徒が議員役となって質問を行い、答弁は所管の委員長(議員)が行うこととしています。また、4名の生徒には交代で議長役もさせていただきます。なお、みえ高校生県議会は公開とし、一般の方も傍聴できるほか、当日は手話通訳も行います。また、インターネットによる生中継や録画配信も行いますので、ぜひご覧いただければと思います。議会の方で

もPRをしているところですが、報道機関の皆さまにおかれましては、事前の情報発信や当日の取材につきまして、何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。私の方からは以上です。

(議長) 皆さまには、ぜひ情報発信におきまして、ご協力を賜りますようお願いいたします。

第8回全国自治体議会改革推進シンポジウムの開催について

(議長) 2点目でございます。第8回全国自治体議会改革推進シンポジウムについて、発表させていただきます。全国の自治体議会議員の交流・連携を図ることを目的に、これまで7回開催してまいりました全国自治体議会改革推進シンポジウムの第8回目を開催することとなりました。今年は、三重県議会基本条例制定から10年の節目の年であります。この間、多くの議会で議会基本条例が制定されたことから、議会がどのように活性化されたか、そして今後どのように展開していくのかについて、意見交換を行っていく予定です。日時と場所は11月9日(水)13時30分から、四日市都ホテルにおいて開催させていただきます。基調講演として、東京大学大学院教授金井利之さんに議会基本条例の意義と限界などについてお話をいただいた後、パネルディスカッションでは、同志社大学大学院教授新川達郎さんのコーディネートにより、東京大学大学院教授金井利之さん、会津若松市議会議員長の目黒章三郎さん、由布市議会議員の小林華弥子さん、三重県議会議会改革推進会議会長の三谷哲央議員の4人をパネリストとして実施いたします。また、シンポジウム終了後には、同ホテルにおいて交流会を予定しております。主な参加者は全国の自治体議会の議員であり、各議会に開催案内を送付し、参加者を募集します。また、一般の方も参加可能であり、一般の方についてはホームページに掲載するお手元の申込書のとおりFAX、メール、郵送により、申し込んでいただくこととなります。申し込み期間は明日(2日)から10月26日までとなっております。私も全国議長会の場や先般開催された紀伊半島三県議会交流会議といった場で、なるべく沢山の方にご参加いただきますようPRをさせていただいております。報道機関の皆さま方にも、当シンポジウムの情報発信につきまして、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

三重県議会インターンシップ実習生の決定について

(議長) 3点目でございます。三重県議会インターンシップ実習生の決定について、発表させていただきます。平成21年度から実施しています三重県議会インターンシップ実習について、本年度は、1名の方から応募があり、実習生として受入れることを決定いたしました。お手元の資料をご覧ください。受入

れを決定したインターンシップ実習生は、北海道大学大学院生の地井貴洋さん（23歳、男性）です。実習期間は、9月5日（月）から16日（金）までの10日間です。実習内容は、県議会の取組や業務内容の聴き取り、委員会や本会議の傍聴、議員との対話・交流を通しての意見発表などを予定しています。インターンシップ実習生には、今回の実習を通して、地方議会への理解を深めるとともに、今後のキャリア形成につなげていただければと考えております。なお、実習の開始に当たっては、私から実習生に受入書の交付を行います。交付の日時は、9月5日（月）13時から、場所は、議事堂3階の議長応接室で行う予定です。

「第10回紀伊半島三県議会交流会議」の開催結果について

（議長）最後に、「第10回紀伊半島三県議会交流会議」の開催結果について、発表させていただきます。第10回紀伊半島三県議会交流会議は、紀伊半島地域に共通する課題について、奈良県議会、和歌山県議会、三重県議会の三者で意見交換を行うため、7月29日に奈良県明日香村の奈良県立万葉文化館で開催され、三重県議会議員9名を含む、総勢27名の議員が出席しました。今回の交流会議では、紀伊半島地域における若者の移住・定住の促進、大規模災害対策、観光振興の3つの議題について、それぞれ意見交換を行い、次の内容で三県が連携して取り組んでいくことを合意したところです。まず、紀伊半島地域における若者の移住・定住の促進については、ホームページやパンフレットなどによる暮らしの魅力の情報発信や、移住希望者に対するきめ細やかな対応などについて意見が出され、すでに三県で実施している首都圏での移住プロモーションを継続し、紀伊半島での暮らしや魅力を引き続き発信していくことについて合意しました。次に、大規模災害対策については、大規模災害発生時における受援体制の検討を進める必要性や、幹線道路の通行不能を想定した救助・救援ルートの確保などについて意見が出され、既に締結している広域的な協定などの具体的な内容の充実や、三県の相互応援体制をさらに連携強化する必要性について合意しました。観光振興については、歴史文化資源を活用した誘客促進や、外国人観光客のニーズに応じた環境整備拡充などについて意見が出され、三県が連携して取り組んでいる「吉野・高野・熊野の国」事業の推進や、歴史・文化、豊かな自然などを三県が連携して情報発信していくことなどを確認するとともに、外国人観光客の受入環境整備推進のための支援拡充に向けて、国に要望していくことについて合意しました。今後の予定ですが、観光振興において合意しました外国人観光客の受入環境整備推進のための支援拡充に向けては、開催県である奈良県議会において要望書を取りまとめ、三県議長の連名で国等に要望書を提出していくこととしています。発表事項は以上です。

2 質疑応答

みえ高校生県議会の開催について

(質問) みえ高校生県議会の質問項目というのは、各校にある程度テーマは振り分けてあるのですか。

(副議長) テーマは事前に振り分けてお願いしているわけではなく、それぞれの学校から考えていただいたテーマで出してくださっております。

(質問) 各校4人ずつなんですよ。4人が一緒に質問するような感じですか。

(副議長) 参加いただく方々は、それぞれの学校で2～4名になっておりますので、2～4名で登壇される学校の皆さんが並んでいただいて、順番に少しずつお話されるかもわかりませんし、また、数名の方が代表して質問する形式になるのかもしれませんが、それぞれの学校のやり方に任されておるということになっております。

第8回全国自治体議会改革推進シンポジウムの開催について

(質問) 全国自治体議会改革推進シンポジウムは各県が持ち回りで開いているのですか。

(議長) 本当の気持ちとしては、持ち回りにしたいところですが、三重県議会として、議会改革を先頭的に進めた立場もありまして、希望は今おっしゃっていただいたことなんですけど、なかなか他所での引き受け手もございませんので、今のところは、ずっと三重県が主体としてやっています。議会改革推進会議の方でも助けていただきながら、なんとか成功させたいと思っております。

(質問) では8回とも、ずっと三重県でやっていますか。

(議長) いろんな場所でやりました。

(質問) わかりました。

(質問) シンポジウムなんですけど、テーマが「議会基本条例が開く議会の未来」となっていて、講演の方の題が「議会基本条例の意義と限界」と書いてあるのですが、テーマ設定の「限界」という意味がどのようなものか大体のところって聞かれていますか。

(議長) 議会改革推進会議の方で、今まで苦労して探してきていただいた講師の方なんですけども、私もちょっと直接は中身については聞いていなくて楽しみにしているんですけども、議会基本条例を全国でも一番最初の時点で作っているわけなんですけども、これが次から次へと全国の自治体で作られてきている。そういった中で、現状との比較なんかをお話してくれるのではないかなというふうに思っておりますが、先生がどんな話をされるかは、私も楽しみにしているところでございます。

(質問) テーマはこの教授がご自身で考えられたのですか。

(議長) 先生の方からだそうです。

(質問) パネリストが会津若松市と由布市とあるのですが、目黒さんと小林さんですけど、この人たちは何かそこで先進的な何かをやっているとかあるのですか。

(議長) 教授2人については、昨年開催されました全国都道府県議会議長会主催で都道府県議会の研究大会があったんですが、この場でコーディネーターを務めるなど、地方議会の現状について精通しているということです。目黒さん、それから小林さん、こちらの方ですか。

(質問) そうです。

(議長) すいません。目黒さんの会津若松市議会は2015年の議会改革度調査で、早稲田大学がやっているのですが、これが全国第6位ということですので、その辺のお話を聞かせていただこうかなというふうに思っております。それから、小林さんの方は2006年の、平成18年ですが、第1回のマニフェスト大賞の審査員特別賞を受賞されました。そういったことから、特に議員が個人で政策提言をし続けて、実現にこぎつけた事例とか、そんな情報も入っていますので、そういった経験から、パネラーとして助けていただければなど、そんな思いです。

(以上) 10時50分 終了